

## マスタープラン改定に当たっての検討の視点について

### 0. 検討フロー

- 現行マスタープラン改定以降、コロナ渦を契機とするデジタル技術（DX）の推進や働き方の変化、脱炭素化の進展、自然災害への対応など多くの社会情勢の変化や、港区内外のまちづくりの進展がありました。
- 令和9年の「港区まちづくりマスタープラン」の見直しに当たって、近年の社会情勢の変化や関連計画の改定、港区内外の動きを踏まえて、「改定に向けた新たな視点」を整理します。

#### 現行まちづくりマスタープラン (平成29.3改定)



現行計画改定以降・・・

1. 社会潮流、ソフトまちづくりの進展 (P1)
2. 20年後を見据えたトレンド・未来予測 (P2)
3. 社会脅威・新たな課題 (P3)
4. 国や都の動き、グローバルまちづくり (P3)
5. 港区内のまちづくりの動き (P4)
6. 港区を取り巻く環境(周辺区のまちづくりの進展) (P4)

マスタープラン  
改定に向けた  
主なまちづくり  
の視点  
(P5)

### 1. 社会潮流、ソフトまちづくりの進展

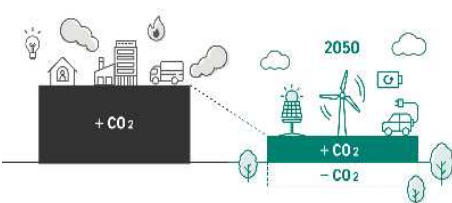
- 近年の社会潮流として、テレワークやDX/GX推進、グリーンインフラ、インクルーシブなまちづくりなど、新技術と環境意識・多様性を重視した社会の変革が起きています。

- (1) 2050年カーボンニュートラルの実現・グリーンTRANSフォーメーション(GX)の推進
  - 「2050年カーボンニュートラル宣言」や「グリーン成長戦略」に基づき、温室効果ガス削減目標が設定され、脱炭素と経済成長との両立を図るグリーンTRANSフォーメーション(GX)が推進。
- (2) 2030年ネイチャーポジティブの実現
  - 「生物多様性国家戦略」や「30by30※1ロードマップ」により、自然資本の保全・拡大、持続可能な活用が目指されている。
- (3) デジタルTRANSフォーメーション(DX)の推進
  - IT技術やデータ活用を基盤に、行政や産業構造のデジタル化が進展。コロナ渦を契機に取組が加速。
- (4) 事前防災・災害対策の推進・帰宅困難者対策
  - 南海トラフ巨大地震や首都直下地震などを想定した防災・減災策を強化。帰宅困難者対策も都市部を中心に重点化。
- (5) 産学連携・スタートアップ支援
  - 大学研究と企業の連携、スタートアップの成長が地域経済や社会課題解決につながるとして行政支援が充実。

- (6) 人間中心のまちづくりを実現、ウォーカブルな空間の創出
  - 歩行者中心の公共空間整備や街路のバリアフリー化、歩行空間拡充などのまちづくりが進展。
- (7) エリアマネジメント活動の活発化
  - 地域主導のまちづくり推進を掲げ、エリアマネジメント団体への支援や制度が拡充。
- (8) 交通に係る新技術(モビリティ、自動運転など)の進展
  - 自動運転やMaaSなどの新技術を活用し、移動の利便性向上や交通事故削減、環境負荷低減を目指す取組を推進。
- (9) SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けた社会的な動き
  - 経済成長、社会的包摂、環境保全を統合的に実現するための持続可能な都市づくりが進展。
- (10) インクルーシブ※2・DEI(Diversity, Equity & Inclusion ※3)な都市の実現
  - 年齢・性別・障害・国籍などに関わらず誰もが安心して暮らし、活躍できる社会を構築するための法整備を実施。

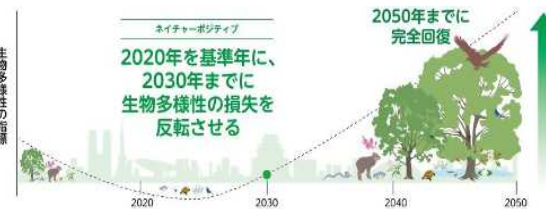
※1:2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標。  
 ※2:障がいの有無や国籍、年齢、性別などに関係なく、違いを認め合い、共生していくことを目指すこと。  
 ※3:「Diversity(多様性)」「Equity(公平性)」「Inclusion(包括性)」の頭文字をとったもの。互いを尊重し個々の能力を活かすだけでなく、状況合わせた機会を提供し、誰もが公平に活躍できる仕組みを作ること、個人と社会が共に成長していくこと。

#### Ⅰ カーボンニュートラルの実現



出典：環境省「脱炭素ポータル」  
[https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon\\_neutral/about/](https://ondankataisaku.env.go.jp/carbon_neutral/about/)

#### Ⅱ ネイチャーポジティブの実現



出典：名古屋市HP  
<https://www.city.nagoya.jp/kankyo/page/0000168164.html>

#### Ⅲ 都市デジタルツイン 実現プロジェクト「PLATEAU」



出典：国土省「PLATEAU」  
<https://www.mlit.go.jp/plateau/>

#### Ⅳ ウォーカブルなまちづくり



出典：国土省「官民連携まちづくりポータルサイト」  
<https://www.mlit.go.jp/toshi/system/>



出典：港区「港区エリアマネジメントガイドライン」  
[https://www.city.mirato.tokyo.jp/documents/14355\\_01\\_ennegidrain.pdf](https://www.city.mirato.tokyo.jp/documents/14355_01_ennegidrain.pdf)

# マスタープラン改定に当たっての検討の視点について

## 2. 20年後を見据えたトレンド・未来予測

### (1) 港区の人口動態

- ✓ 2036年の港区総人口(日本人+外国人)の推計値 | 317,575人 (18.6%増(2025年比))
- ✓ 2036年の高齢化率 | 19.9% (2025年17.2%)
- 港区の将来人口は増加傾向が継続し、令和18(2036)年には317,575人、令和7(2025)年比で18.6%増となる見込み。全ての地区で人口増加が見込まれている。
- 生産年齢人口の増加率を上回る割合で高齢者人口が増加し、2036年には高齢者人口1人に対し生産年齢人口は約3.4人となる。人口増加の要因として、出生数の減少に加え、港区では概ね20歳代・30歳代で転入者数が転出者数を上回る転入超過が続くと見込まれている。

### 港区の総人口(日本人+外国人)の推計結果



出典:「港区人口推計(令和7年3月)」(港区)を基に作成

### 港区の昼夜間人口の推移

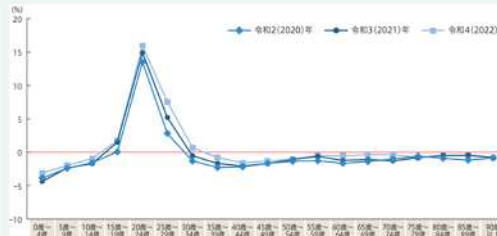


出典:「国勢調査 東京都の昼間人口 令和2年国勢調査による東京都の昼間人口(従業・通学地による人口)」(東京都)を基に作成 ※昼夜間人口比率=昼間人口÷夜間人口×100

- ✓ 2023年の港区合計特殊出生率 | 1.23 (23区内2位)
- ✓ 2020年の港区昼間人口 | 約97万人 (夜間人口の約4倍、23区内最多)
- ✓ 2024年の東京都の外国人旅行者 | 約1,954万人 (過去最多、2020年比28.7%増)

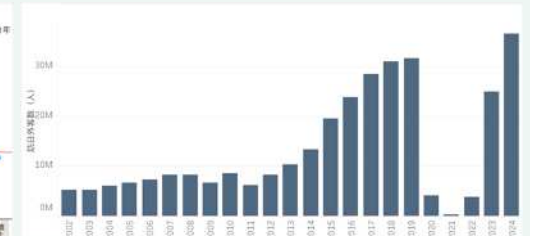
- 令和5(2023)年出生数は2,355人、合計特殊出生率1.23となっている。
- 令和2(2020)年国勢調査結果では、昼間人口は前回調査結果より増加して約97万人となり、引き続き23区内最多となっている。
- 令和5年に東京都を訪れた旅行者数は日本人旅行者が約4億7,456万人(対令和元年比12.6%減)、外国人旅行者が約1,954万人(同28.7%増)となり、全体としては約4億9,410万人(同11.5%減)で、訪都外国人旅行者数は過去最多を記録。

### 港区の年齢階級別転入超過率



出典:港区基本計画令和5年度改定版

### 訪日外客数の推移(全国)

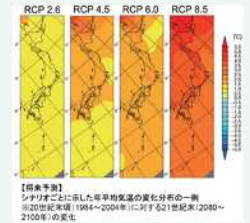


出典:日本政府観光局(JNTO)日本の観光統計データ「年別 訪日外客数の推移」データ更新日2025/4/18

### (2) 地球環境問題が深刻化

- ✓ 世界平均気温は2040年までに1.5℃上昇
- ✓ 首都圏人口密集地を中心とした海面上昇のリスク
- ✓ 真夏日・猛暑日の日数の増加、短時間豪雨が増加
- ✓ 気候変動による生態系・水資源・観光資源への影響
- 1850~1900年を基準とした世界平均気温は2040年までに1.5℃上昇する予測。
- 気候変動に伴う異常気象の頻発や海面上昇、農作物の生産量減少や都市部での洪水リスク増大といった課題が生じ、温室効果ガス排出削減の取り組みが一層求められる。
- 再生可能エネルギーの導入促進や、省エネ技術の普及の重要性が増加。

### 年平均気温のシナリオ予測



出典:気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート(環境省・文部科学省・農林水産省・国土交通省・気象庁、2018)

### 2040年エネルギー需給の見通し



出典:第7次エネルギー基本計画(令和7年2月) ※左のグラフは最終エネルギー消費量、右のグラフは発電電力量であり、送配電損失と所内電力量を差し引いたものが電力需要

### (3) 東京都が見据える2050年

出典:東京都2050東京戦略(令和7年3月)より抜粋

- ✓ 日本の成長を牽引し、人がいきいきと輝く都市・東京
- 地域の特長を生かした多様な拠点形成
- 水や緑を感じ楽しく歩ける空間創出
- 駅周辺や道路空間のリメイク等により、ウォーカブルな空間・まちを創出
- 空き家など既存ストックの活用やリノベーションによるまちづくりを推進



- ✓ 世界一のインフラが、人をつなぎ、暮らしを支える

- 緑豊かで魅力的な道路空間の創出
- 道路のバリアフリー化
- 次世代モビリティの社会実装
- 鉄道ネットワークの充実
- 乗り換えしやすい交通結節点の形成、地域公共交通の充実・強化
- 多様な交通モードの導入(デマンド交通、舟運など)



- ✓ 豊かな緑と水が織りなす潤いと安らぎの都市へ

- 東京グリーンビズの推進(100年先を見据え、都民や企業などとともに、東京の緑を「まもる」「育てる」「活かす」取組)

- ✓ 脱炭素社会を実現し、世界のネットゼロ達成に大きく貢献

- 再エネの基幹エネルギー化、エネルギー効率の最大化
- 水素エネルギーの社会実装化、サーキュラーエコノミーへの移行

- ✓ 災害の脅威から都民を守る、世界で最も強靱な都市へ

- TOKYO 強化プロジェクトの推進、自助・共助・公助の推進

### (4) 技術革新の進展 出典:内閣府ムーンショット型研究開発制度目標

- ✓ 社会:急激的なイノベーションで少子高齢化時代を切り拓く
- ✓ 環境:地球環境を回復させながら都市文明を発展させる
- ✓ 経済:サイエンスとテクノロジーでフロンティアを開拓する

2050年までの目標 ※一部抜粋

- 人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- 地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
- 未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食糧供給産業を創出
- 激甚化しつつある台風や豪雨を制御し極端風水害の脅威から開放された安全安心な社会を実現



### (5) 都市再生ビジョン 出典:国交省「成熟社会の共感都市再生ビジョン」

- ✓ 「経済的価値」と「公共的価値」を官民連携で両立するために計画段階からの協働を促進
- ✓ 都市の固有の魅力に着目し、地域資源である既存ストックの活用を促進
- ✓ まちを「育てていく」という視点により、将来の可変性・柔軟性を許容する「余白」の創出を促進

取り組むべき5つの施策

- 協働型都市再生によるウェルビーイングの向上
- 余白を楽しむパブリックライフの浸透
- 地域資源の保全と活用によるシビックプライドの醸成
- 業務機能をはじめ多様な機能の集積による稼ぐ力の創出
- 共創・支援型エリアマネジメントによる地域経営

## マスタープラン改定に当たっての検討の視点について

### 3. 社会脅威・新たな課題への対応

- 社会脅威・課題としては、激甚化する自然災害や気候危機・インフラ老朽化・エネルギー・食料の海外依存など、**安全保障・環境・経済基盤を脅かす要因**が挙げられます。

#### (1) 人口動態の変化への対応

- ・ 東京都総人口は2040年をピークに減少に転じる予測の一方、港区総人口は今後も増加見込み。港区では2050年に、高齢化率約24%となる見込み。高齢化や人口減少を見据えた都市構造の再編が必要。

#### (2) 気候危機の深刻化、災害リスク

- ・ 地球温暖化等の気候変動により、将来的にも世界的に異常気象が増加する可能性が指摘。気象災害による人的・物的被害等の気象災害リスクの高まりが懸念される。

#### (3) 二酸化炭素排出削減

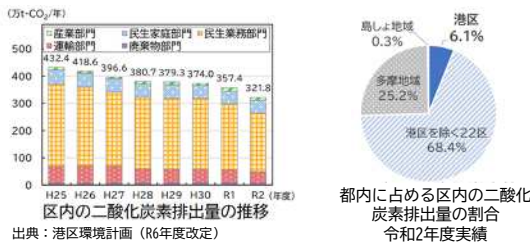
- ・ 区内の二酸化炭素排出量は減少傾向にあるものの、都内で最も多く、23区の排出量の約1割を占める。「2050 年ゼロカーボンシティ」達成に向け、より一層の地球温暖化対策が必要。

#### ■ 東京都と港区の将来推計人口 [単位: 千人]



出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）』

#### ■ 区内の二酸化炭素排出量の推移及び割合



#### (4) 防災・減災と都市機能の確保

- ・ 防災・減災を支える事前防災の推進。大規模自然災害時にも都市・交通機能を維持できるよう、多重的なネットワークの構築や代替ルートの確保が求められる。

#### (5) 人口増に伴う施設・インフラ需要の増大・施設維持管理

- ・ 人口増加に伴う施設需要の増大、インフラ施設の機能強化、公共施設の安全・安心や老朽化対策など、公共施設の整備、維持管理に係る経費の削減や平準化などの対応が求められる。

#### (6) 国際競争環境の変化

- ・ 高速化・激化する国際競争、日本は生産性・効率性の低さなどで国際化の遅れ等により国際競争力は低迷。産業構造の高度化や協働体制の強化を図り、グローバルな視点で戦略的な対応が必要。

#### ■ 帰宅困難者（品川駅周辺）



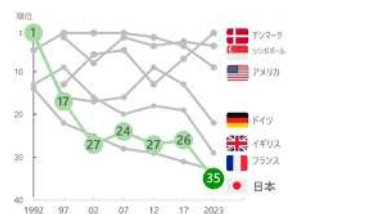
出典：東京都「帰宅困難者対策ハンドブック」

#### ■ 都市型水害（港区）



出典：東京都防災ホームページ「過去に東京で起こった風水害から学ぶ」

#### ■ 世界競争力ランキング



出典：東京都「『未来の東京』戦略 version up 2024」

### 4. 国や都の動き、グローバルまちづくり

#### 法改正の主だった内容

- ・ **都市緑地法等の一部を改正する法律（令和6年2月13日）等**  
→ 国主導による戦略的な都市緑地の確保、積極的な保全・更新、緑と調和した都市環境整備への民間投資の呼び込み（TSUNAG認定）等
- ・ **脱炭素社会の実現に資するための建築物のエネルギー消費性能の向上に関する法律等の一部を改正する法律（令和4年4月22日）等**  
→ 市町村が定める再エネルギー利用促進区域への再エネルギー導入促進・高さ制限の合理化、新築住宅・非住宅への省エネルギー基準の義務付け、ZEH・ZEB水準へ誘導 等
- ・ **マンションの管理の適正化の推進に関する法律及びマンションの建替え等の円滑化に関する法律の一部を改正する法律案（令和2年2月28日）等**  
→ 地方公共団体によるマンション管理適正化推進計画の策定や管理計画の認定制度の創設 等
- ・ **都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年9月7日施行）等**  
→ 都市再生整備計画に「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を目指す区域（滞在快適性等向上区域）を設定することで、官民一体で取り組むにぎわい空間の創出、駐車場出入口規制等の導入、都市再生推進法人による道路・公園の占用手続の円滑化等の取組を推進
- ・ **道路法等の一部を改正する法律案（令和2年2月4日）**  
→ 「歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）」制度の創設により、指定道路占用基準の緩和、滞留空間整備 等

#### 国 第三次国土形成計画（全国計画）（令和5年7月）

- ・ 目指す国土の姿「新時代に地域力をつなぐ国土」
- ・ デジタルとリアル融合による活力ある国土づくり
- ・ 巨大災害、気候危機、緊迫化する国際情勢に対応する安全・安心な国土づくり
- ・ 世界に誇る美しい自然と多彩な文化を育む個性豊かな国土づくり

#### 国 第5期国土交通省技術基本計画（令和4年4月）

- 6つの重点分野
- ① 防災・減災が主流となる社会の実現 ④ 経済の好循環を支える基盤整備
- ② 持続可能なインフラメンテナンス ⑤ デジタル・トランスフォーメーション
- ③ 持続可能で暮らしやすい地域社会の ⑥ 脱炭素化・インフラ空間の多面的な利活用による生活の質の向上

#### 国 G7都市大臣会合コミュニケ（令和6年11月）

- ① ネットゼロ・レジリエント・ネイチャーポジティブな都市
- ② インクルーシブな都市、アフォーダブルな住宅、歴史・文化
- ③ イノベーション創出とデジタル化の実現

#### 国 新たな首都圏広域地方計画

##### 中間とりまとめ（素案）（令和6年12月）

- 「転換」を促す3つの基幹的な取組
- ① 多様な主体が働きやすく、働きがいを持てる首都圏の創造プロジェクト
- ② DXによる統合的な国土マネジメント実現プロジェクト
- ③ 広域インフラ充実・強化プロジェクト

#### 東京都 2050東京戦略（令和7年3月）

- 2050年代のビジョン
- すべての「人」が輝き、一人ひとりが幸せを実感できる「成長」と「成熟」が両立した「世界で一番の都市・東京」
- ・ **ダイバーシティ**：誰もが将来の夢や希望を叶えもっと一人ひとりが輝く東京へ
- ・ **スマートシティ**：東京のポテンシャルを磨き上げ
- ・ **もっと活力溢れる東京へ**
- ・ **セーフシティ**：強靱で持続可能な都市を創造しもっと安全・安心な東京へ

#### 東京都 東京バイエSプロジェクト（令和7年3月）

- 新しい価値を生み続ける世界のモデル都市：2050年代の姿と2035年までの具体的な取組を提示
- ・ **環境・GX**：環境技術を駆使しゼロエミッションを実現・共創・仲間づくり：多様な主体が活躍する舞台を創出
- ・ **DX・カブ**：デジタル技術を活用し快適な都市を実現・まちづくり：広大な空間や水辺を生かした賑わい創出

#### 東京都 東京都都市づくりのグランドデザイン（平成29年9月）

- 港区は「中核広域拠点域」及び「国際ビジネス交流ゾーン」に位置付けられている。
- 都市づくりの7つの戦略：分野横断的な視点から都市づくりの戦略を設定
- ① 持続的な成長を生み、活力にあふれる拠点を形成 ⑤ 利便性の高い生活の実現と多様なコミュニティの創出
- ② 人・モノ・情報の自由自在な交流を実現 ⑥ 四季折々の美しい緑と水を編み込んだ都市の構築
- ③ 災害リスクと環境問題に立ち向かう都市の構築 ⑦ 芸術・文化・スポーツによる新たな魅力を創出
- ④ あらゆる人々の暮らしの場の提供

#### 東京都 東京都計画都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（令和3年3月）

- 中核的な拠点：鉄道ネットワークの高い結節性を持ち、広域的な観点から、高度な都市機能の集積を図る拠点を「中核的な拠点」として位置付け、東京の魅力を高める都市機能の集積を促進
- 区内：新橋、台場、品川、六本木・虎ノ門
- 活力にぎわいの拠点：中核広域拠点域において、従来の拠点等に加え、都市機能の集積状況を踏まえ、鉄道乗車人員の特に多い駅周辺等を位置付け
- 区内：田町・三田、浜松町・芝、青山一丁目

#### 国際 グローバルなまちづくり

- ・ 都市の成熟と歩行者や自然優先の都市構造への転換
- 例：パリ市「15分都市」、ニューヨーク市「ハイレイン」等
- ・ 気候変動への適用を前提とした都市プロジェクト
- 例：コペンハーゲン市「気候パーク」、ニューヨーク市「Big U」等
- ・ 人を中心としたイノベーション都市
- 例：バリエロナ市「スーパーブロック」等



出典：パリ市 HP、東京都「東京高速道路（KK線）再生方針」

## マスタープラン改定に当たっての検討の視点について

### 5. 港区内のまちづくりの動き／6. 港区を取り巻く環境(周辺区のまちづくりの進展)

- これまで六本木・虎ノ門、品川などを中心に国際都市東京を牽引する都市開発の誘導、新駅整備等の基盤整備、都市開発を契機とした緑化の促進、区独自の取組による脱炭素の促進などに取り組んでおり、今後も大規模開発事業の進展や次世代型交通ターミナル整備等の交通結節点の整備など、区を取り巻く環境の変化が想定されます。

#### 1. 土地利用・活用

##### 【ハード面】

- 特定都市再生緊急整備地域内（虎ノ門地域、品川駅周辺地域、浜松町駅周辺地域など）を中心とした大規模開発の進展
- 地域のまちづくりガイドライン等による拠点地区の整備をはじめ、開発事業等の計画的な誘導と公共貢献整備（新橋・虎ノ門、六本木・虎ノ門、三田・高輪、白金高輪駅東部、品川駅周辺、赤坂中部区等）

##### 【ソフト面】

- まちづくり活動に取り組む主体の多様化（エリアマネジメント団体、都市再生推進法人、まちづくり条例に基づくまちづくり団体など）、広域連携事業中（品川駅周辺、六本木五丁目西地区など）又は計画（新橋駅周辺、芝公園など）の大規模開発竣工後の運営（エリアマネジメントなど）
- 公共空間等の民間活用（東京のしゃれた街並みづくり推進条例の活用、港区エリアマネジメント活動計画認定制度の創設及び運用）
- 「港区市街地再開発事業に係る事後評価制度」からのフィードバック
- 都・他区に比べて区内水辺空間を活用した取組が進展していない

#### 2. 住宅・生活環境・地域コミュニティ・防犯

- 第4次港区住宅基本計画（R5年度）、マンション管理適正化推進計画（R4年度）、港区耐震改修促進計画（R6年度）を改定
- 子育て支援施設の誘導、マンション管理適正化の進展
- マンション高齢化に伴う管理の適正化、耐震化、建替え等の推進
- 住宅価格高騰による子育て世帯の流出
- 高齢化したマンションの増加、耐震性不足・耐震改修未実施のマンションの存在
- スーパーや高齢者支援施設などの生活利便施設の不足
- 新築住宅・既存住宅の脱炭素化の取組

#### 3. 道路・交通

- 港区総合交通計画（R4年度）、港区バリアフリー基本構想（R4年度）を策定
- 新駅2駅の開業、ちいパスや自転車シェアリングの利用促進など、交通ネットワークの整備とラストワンマイルを担う交通手段の利便性の向上
- 東京メトロ南北線分岐線整備・新駅整備（白金高輪～品川）（予定）
- 環状第4号線整備（予定）、国道15号拡幅整備（予定）
- 品川駅西口駅前広場整備＋次世代型交通ターミナル整備構想（予定）
- 京浜急行本線連続立体交差事業（泉岳寺駅～新馬場駅間）（事業中）
- 地域公共交通の導入が困難な地域の高齢者や障害者等の移動手段の確保
- 電動キックボード等の新たなモビリティの交通安全の取組
- MaaSの活用、データ提供等のさらなる交通DXの推進
- 交通面での環境負荷軽減に向けた区民意識の醸成(自家用車から公共交通への転換等)

#### 8. 国際化・観光・文化

- 第4次港区観光振興プラン（R5年度）、港区文化芸術振興プラン（R5年度）、港区国際化推進プラン（R5年度）を改定
- 外国人が生活する国際ビジネス拠点の形成、エリアマネジメント等による地域のにぎわい創出、インバウンド対応など観光資源の活用とネットワーク化
- 国際的なビジネス・交流拠点として、国内外から人を惹きつけるまちの形（都市環境の魅力向上、安全性の確保、子育て支援施設・医療施設などの充実）
- 国内外からの旅行者を受け入れる商業・宿泊・文化・交流・観光などの都市機能強化
- みなと芸術センターを拠点とした文化芸術の推進



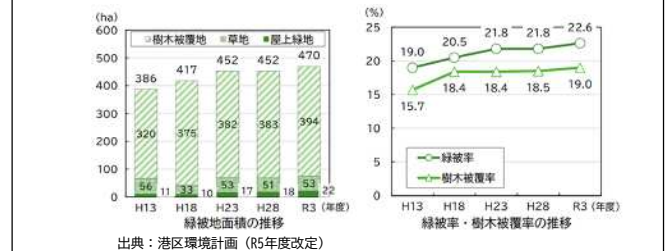
#### ■港区を取り巻く環境(周辺区のまちづくりの進展)

- 羽田空港アクセス線（仮称）（東山手ルート、臨海部ルート）の開通（2031年度）
- K K線再生プロジェクトの進展
- 新たな首都高環状ルート（新橋連絡路）の整備
- リニア中央新幹線の開通（2034年度以降）
- 港区周辺の大規模な開発事業の進展（品川浦周辺地区、内幸町1丁目街区、築地地区まちづくり など）
- 都立日比谷公園再生整備

青字：マスタープラン策定後のまちづくり進展及び近年の社会情勢の変化にともなう課題

#### 4. 緑・水

- 港区緑と水の総合計画（R2年度）、港にぎわい公園づくり推進計画（R3年度）、港区生物多様性地域戦略（H28年度）などの関連計画を改定・策定
- 都市緑化、公園・緑地の整備・管理運営、区が有する水辺空間（運河、東京湾、古川等）の有効活用、生物多様性に関する取組が進捗
- 大規模な開発事業等により設けられるオープンスペースが多く、公園機能の一部補完、生物多様性配慮など、質の高い緑地が整備
- 分散した緑地をつなぐエコロジカルネットワークの形成
- 古川、運河、お台場の海の更なる水質改善と親水性向上



#### 5. 防災・復興

- 港区地域防災計画（R5年度）修正、港区防災づくり整備指針（R5年度）策定、港区無電柱化推進計画（R3年度）を改定
- 道路整備や無電柱化、地下調節池等、都市基盤の整備による防災性の向上
- 港区防災づくり整備指針による地震対策・風水害対策
- 都市再生安全確保計画をはじめ、官民連携による防災力強化
- 災害時に利用可能な区内自転車シェアリングポートの整備
- 膨大な昼間人口に対応する帰宅困難者対策の必要性
- 災害時の高齢者や外国人居住者などの要配慮者への対応
- 古い家屋や細街路の火災リスク、救助活動が困難等のリスク
- 大雨や集中豪雨による水害対策の強化

#### 6. 景観

- 建築物等の景観協議により、開発事業等の景観形成の誘導
- 景観づくり賞・区民景観セレクションにより景観に関する意識啓発の実施
- 歴史的建造物を核とした景観形成・保全など

#### 7. 低炭素化

- 港区環境基本計画（R5年度）、港区低炭素まちづくり計画（R3年度）、港区建築物再生可能エネルギー利用促進計画（R7年度）などの関連計画を改定・策定
- 区有施設のZEB/ZEH化・LED化推進、再エネ100%電力の積極的導入
- 地球温暖化対策報告書制度創設や建築物低炭素化促進制度の省エネ性能基準変更による、事業者による再エネや木材の活用促進の進展
- 気候変動対策の最新動向や技術革新を踏まえた目標、施策の見直しの必要性
- 環境教育・環境学習を通じた意識向上と区民や事業者等の主体的な行動変容
- 脱炭素に向けた広域自治体連携、分野を越えた連携、民間との協創

## マスタープラン改定に当たっての検討の視点について

### 7. まちづくりマスタープラン改定に向けた主なまちづくりの視点（案）

社会潮流、ソフトまちづくりの進展

20年後を見据えたトレンド・未来予測

社会脅威・新たな課題

国や都の動き、グローバルまちづくり

港区内のまちづくりの動き

港区を取り巻く環境(周辺区のまちづくりの進展)

赤字：新たな視点

#### 土地利用・活用

- メリハリある土地利用・都市開発誘導
- 地域課題解決・戦略的な市街地整備
- エリアマネジメントの活用



- 高次都市機能誘導（MICEなど）
- 国家戦略特別区の整備後におけるまちづくりの取組
- まちの発展と環境負荷低減の両立
- 水辺の魅力をいかしたまちづくり
- 市街地再開発事業の事後評価内容の反映

#### 住宅・生活環境・地域コミュニティ・防犯

- 多様で良質な住まいの充実
- 公共施設や生活利便施設の整備・誘導
- 多文化共生社会の実現
- 健康増進や安全・安心な生活環境づくり



- 住宅価格高騰による子育て世帯の流出
- 増え続ける高齢マンションへの取組
- 既存ストックを活用した地域交流の場の創出
- 生活安全に関するネットワークの強化

#### 道路・交通

- 総合的・階層的な交通ネットワークの構築
- 利便性の向上・交通結節機能の強化
- “歩いて楽しいまち”の実現
- 自転車の利用環境の整備



- 交通DX(MaaSやビッグデータ、ICT)の活用
- 次世代モビリティ(自動運転、空飛ぶ車)の活用
- リニア中央新幹線や地下鉄新線を見据えた利用環境の整備
- インクルーシブ・ウォカブルの進展
- ラストワンマイルの充実

#### 緑・水

- 緑と水のネットワーク形成
- 質の高い緑と水の保全・再生
- 生物多様性に資する自然回復の場づくり
- 防災に役立つ緑と水の確保・活用
- 緑地や水辺をいかしたにぎわいづくり



- まちづくりを通じたネイチャーポジティブ(30by30の実現、グリーンインフラの推進)
- 多様なニーズに対応した民間活力の推進
- インクルーシブ公園の整備促進

#### 防災・復興

- 地震、都市型水害などあらゆる災害に強いまちづくり
- 多主体連携で地域防災力の向上
- 中長期的な都市の復興まちづくり



- 防災DXと地域防災力の向上
- 安全確保計画策定の推進による帰宅困難者対策強化(インバウンドを含む)
- 事前防災、事前復興まちづくりの推進
- グリーンインフラによる災害対策
- 地域インフラ群再生戦略マネジメント

#### 景観

- 豊富な景観資源を核とした景観の形成
- 地域個性をいかした魅力ある街並み形成
- 誇りと愛着に満ちた街並み形成
- 区民等の景観に対する意識啓発



- 歴史的建造物等を核とした景観形成・保全など
- イルミネーションやライトアップなどによる夜間景観の形成
- パブリックアートなどによるにぎわい景観の創出
- XRなど最新技術を活用した景観啓発

#### 低炭素化

- 環境負荷の低減と分野連携
- 先進技術の導入とエネルギー利用の促進
- 都市緑化の推進
- 環境に配慮した交通環境の形成



- 2050年カーボンニュートラルの実現
- 広域連携ネットワーク構築
- 資源循環、3Rの取組の促進
- 風の道を意識した市街地の形成
- リノベーションによる再生まちづくり
- エネルギーの地産地消

#### 国際化・観光・文化

- 外国人居住・多文化共生
- エリアの魅力や個性を戦略的に発信
- 多様な観光資源の活用
- 身近な歴史・文化の継承



- イノベーション拠点の形成
- 国内外からの旅行者を受け入れる都市機能集約
- 水辺の魅力をいかした取組推進
- 観光・歴史資源などの連携促進
- 身近に文化芸術に係る場づくり

#### 今後のまちづくりの進め方

- 地域主体のまちづくりの推進(まちづくり条例の活用等)
- まちづくりガイドラインの策定・運用
- 関連する個別計画の着実な推進

- まちづくり人材の発掘・育成
- 既存ストックの適正な管理及び民間活力を導入したインフラ整備



- 官民が連携したまちづくりの推進
- 都市アセットマネジメントの推進
- データ活用による地域の課題抽出、新たな事業展開

分野横断的に  
ご議論いただきたい  
テーマ（案）

子育て・教育都市

DX・GX・脱炭素化推進

エリアマネジメント活動の推進